現代日本人の持つ年代別政治意識の特徴[1]

要旨

本稿では、大阪商業大学 JGSS 研究センターの『生活と意識に関する国際比較調査』を用いて、日本人の持つ年代別の政治意識の特徴について定量的に分析した。その結果、日本人の持つ政治理解、投票意識、国会議員に対する信頼感は年代が若くなるほどに低くなる傾向にあったが、政治無力感については、若年層が政治無力感が強いとは言えなかった。また、年代別に見たこれらの政治意識の特徴は、少なくとも 2000 年から 2010 年にかけては変動しておらず、世代の特徴ではなく年代の特徴だと言えそうであった。公職選挙法改正に伴う選挙権年齢の引き下げを目前にして、本稿の分析では年代を説明変数として政治意識に回帰することによって、現段階での若者の政治意識の特徴を捉えた。

キーワード

政治意識、投票率、若年層、アンケート調査、計量分析

執筆者氏名

大阪大学法学部国際公共政策学科

3 年生　大岩　秀平

3 年生　白谷　佳菜

---

[1] 謝辞

本稿では、大阪商業大学 JGSS 研究センターによる調査を使用させていただいた。この場で深く御礼申し上げる。また、本稿の執筆にあたって、小原美紀准教授（大阪大学）及び 2015 年度のゼミ生に多くの有益なコメントを頂いた。この場を借りて感謝の意を表したい。しかし、本稿に存在する過誤等の一切の責任は筆者らに帰属する。

第１章　はじめに

近年、日本における投票率の低下が問題となっている。特に国政選挙における投票率は低い。公益財団法人明るい選挙推進協会のデータによると、国政選挙における全体の投票率は2014年12月に行われた第47回衆議院議員総選挙では52.66%、2013年7月に行われた第23回参議院議員通常選挙では52.61%と、いずれも低い水準となっている。中でも若年層の投票率は低く、20代の投票率は、同じ第47回衆議院議員総選挙では32.58%、第23回参議院議員通常選挙では33.37%にとどまっており、全体の投票率と比べると低い水準にあることがわかる。アメリカのワッテンバーグ（M.P.Wattenberg）は政治研究において国際比較を行い、その中で30歳以下の若年層と65歳以上の老年層の投票率の差が最も大きい国が日本であると指摘している。

一方で、2015年6月15日付けの日本経済新聞では、参院政治倫理・選挙制度特別委員会は、選挙権年齢を「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる公職選挙法改正案を全会一致で可決した旨が報じられた。2016年夏に行われる参議院議員選挙より適用が開始される。この改正を受け、提出者の一人である自民党の船田元・憲法改正推進本部長は「選挙権年齢引き下げがスムーズに行われるとともに、若い人たちの政治意識、関心がより高まることを望む」と語った。[2]

現段階で、日本人は政治に対してどのような意識を持っているのであろうか。本稿では現代日本人の持つ政治意識に主眼を置いた上で、「若いか、そうでないか」などの年代が政治意識にどのように影響を与えるのかに特に着目したい。大阪商業大学 JGSS 研究センターの行った意識調査のうち政治意識に関する設問を取り上げた。[3]設問の回答状況を概観した上で、年代が政治意識に与える影響を最小二乗法を用いて分析する。具体的には、年代を説明変数としてこれらの政治意識を回帰し、若者の政治意識の特徴を捉えた。日本人の持つ政治意識に関しては、概ね年代が若くなるほどに低くなる傾向にあったが、そうとは言えない項目も存在した。また、調査の行われた年度にも着目したところ年代別に見た政治意識の特徴は、少なくとも 2000 年から 2010 年にかけては変動しておらず、世代の特徴ではなく年代の特徴だと言えそうである。

---

[2] 日本経済新聞（2015/6/15）より引用
[3] 大阪商業大学 JGSS 研究センター『生活と意識についての国際比較調査』

続いて本研究の貢献について述べる。まず、政治意識に関する研究の重要性という点である。木村(2000)や山田(2002)などの先行研究で挙げられるように、政治意識は実際の投票行動と関連性を持つことが示されている。また、計量的手法を用いた点である。政治意識を規定する要因には様々なものが挙げられている。計量的手法を用いることで、こうした様々な要因をコントロールした分析を行うことが可能となる。さらに、年代別の現代日本人の政治意識の特徴とその動きを捉えた点である。政治意識に影響を与える要因を年代による効果と年による効果に分けた分析を行ったことで、年代別の特徴と近年の政治意識の動きに関する示唆を得た。

本稿の構成は以下の通りである。まず、本章に続く第2章では政治意識に関する先行研究を挙げ、政治意識研究における意義を明らかにした上で本稿の位置づけを示す。第3章では分析に使用したデータを示し、調査の回答状況を概観する。第4章では計量分析に用いたモデルを説明し、続く第5章で結果の提示と考察を行う。

第２章　先行研究と本稿の位置づけ

本章では政治意識に関する先行研究を整理する。現代日本人の持つ政治意識に関しては様々な研究が行われている。中でも、政治意識と「選挙に行くかどうか」といった実際の投票・棄権行動の関連性についての研究が数多くなされてきた。木村(2000)は、1990 年代の衆参両院の選挙の棄権率と、『近畿の市民と市政の意識調査』のデータを用いた研究によって、「私のような国民がどう考えようと役人にとっては関係のないことだと思う」「政府のやることについて、私のような国民が言えることは何もない」といった政治に対する有効感を欠いた者のほうが、そうでない者に比べて投票を棄権する傾向があることを明らかにしている。また山田(2002)は、明るい選挙推進協会の衆院選後調査データに基づいた分析によって、政治に無関心な人や選挙で政治は良くならないと思っている人は棄権の決定時期が早い点や、選挙に行って投票する人ほど国政に対する信頼度が高い点などを指摘している。これらの研究より、政治意識と投票行動との関連性がうかがえる。現代日本人の持つ政治意識を把握することは実際の選挙の投票率を考える上でも重要であると考えられる。

また、安野(2002,2003,2005)は本稿でも使用したJGSS研究センターの『生活と意識に関する国際比較調査』を用いて政治意識に関する研究を行っており、政治意識の様々な規定要因を明らかにしている。安野・池田(2002)では、2000年のデータを用いて「政治的有効性感覚が社会関係資本によって高められる」という仮説を検証し、政治意識の規定要因にコミュニティへの参加などの社会関係資本を挙げている。その上で政治的有効性感覚の有無を被説明変数とするロジスティック回帰分析を行い、教育や加齢、メディア接触、性別、都市規模、学歴などを有意であった項目として政治意識の規定要因としている。また、安野(2003)ではメディアへの接触の項目に特に着目し、同調査の2001年のデータを用いた分析を行い、メディア接触は政治的有効性感覚には正の相関を生む一方で政治家への信頼とは負の相関を生むと述べている。さらに、安野(2005)では同調査の2003年のデータを用いてパーソナル・ネットワークの大きさとその規定要因について明らかにする中で政治意識に関しても言及しており、パーソナル・ネットワークの大きさは政治的有効性感覚にも、その先にある政治参加自体にも正の影響を与えると述べられている。

以上の先行研究を踏まえ、本稿での分析では現代日本人の持つ政治意識が年代によってどのように異なるかを検証する。また、年度における影響を考慮すべく、同調査のうち2000年、2010年の2年分のデータを用いた分析を行う。

第３章　使用データ

本稿で用いたデータは、大阪商業大学JGSS研究センターによる『生活と意識についての国際比較調査』である。『生活と意識についての国際比較調査』は、満20～89歳の男女を対象にほぼ毎年行われている調査である。データの回収方法は、面接法と留置法を組み合わせたものであり、層化二段抽出法により全国から抽出される。回答者には両方の調査票への回答が依頼される。調査項目は、原則的に毎回調査する中心的な設問と、一回限りあるいは数回に一度だけ調査する時事的な設問に分けられる。中心的な設問には、回答者の職業や世帯構成などの基本属性に関する設問に加え、回答者の日常的な行動や基本的な生活意識、政治意識などに関する設問が含まれる。[4]

[4] 大阪商業大学JGSS研究センターホームページ(http://jgss.daishodai.ac.jp/)より引用

本分析ではその中から、第一回の調査から継続して問われている政治的有効性感覚に関する 4 通りの設問項目を採用した。また、計量分析を行う前に、現代日本人のどの年代がどのような政治意識を持つのかについて、政治意識に関する設問の年代別の回答状況を用いて概観したい。本稿で採用した設問の内容は以下の通りである。

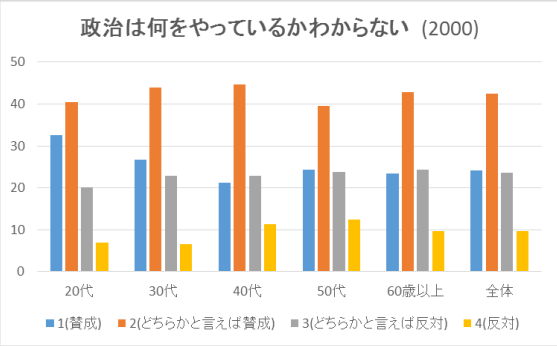
(a) 政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない
(b) 選挙では大勢の人々が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない
(c) 国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる
(d) 自分のようなふつうの市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない

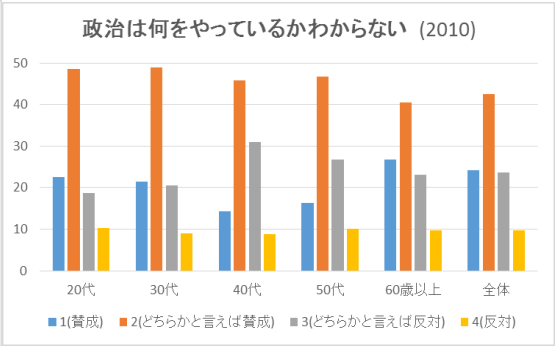
回答状況については表 1 を参照されたい。まず、(a)「政治は何をやっているかわからない」、(d)「政治を変える力は無い」という意見にどの程度賛成するのかについて、1（賛成）または 2（どちらかと言えば賛成）を選んだ者は全体で 6 割前後であった。回答者の半数以上が政治に対して政治に関する理解が薄いと感じていたり、政治に対する無力感を抱いていることがわかる。

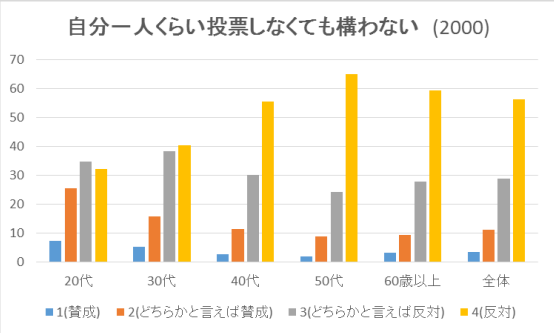
次に、(b)「自分一人くらい投票しなくても構わない」という意見についてである。この項目に関しては 1（賛成）または 2（反対）を選んだ者は 2 割以下と少ないものの、年齢によるばらつきが他の項目に比べて大きいことがわかる。投票に対する義務感は高齢になるほど上がっていく可能性があると考えられる。

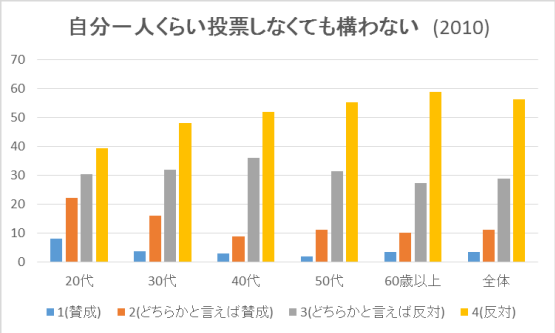
最後に、(c)「議員は当選後自分のことしか考えなくなる」という項目に関しては、1（賛成）または 2（どちらかと言えば賛成）と回答した者の割合が 2000 年・2010 年の両年ともに 8 割を超えている。現代日本人の傾向として、近年は議員に対する信頼は低いままであることがうかがえる。以上より、(a)～(d)の 4 つの回答状況を概観した結果、現代日本人の持つ政治意識としては、議員に対する不信が特に大きく、各項目について年代によっても持つ意識に差がある可能性が示唆された。

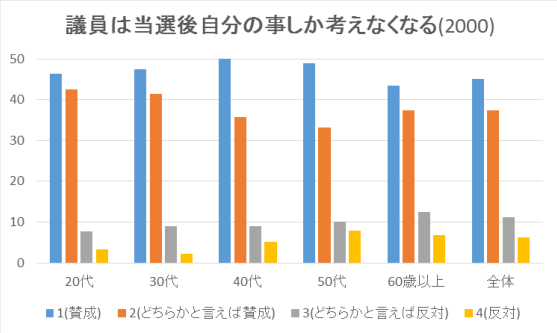
（表１：政治意識に関する設問の年代別回答状況）

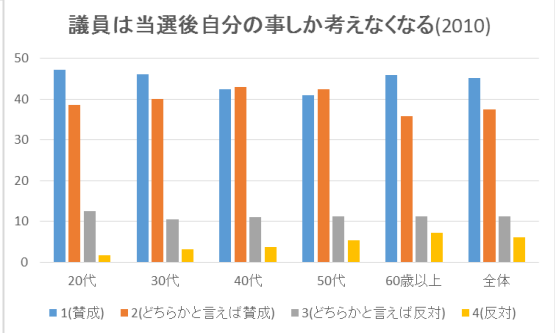


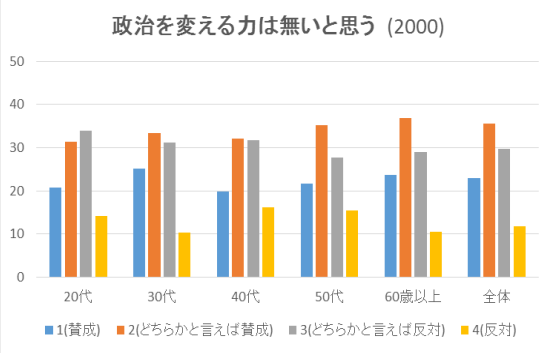


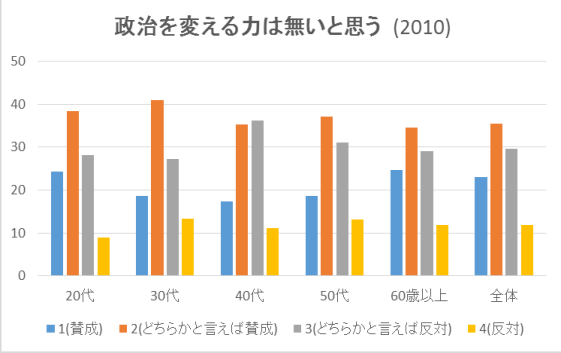












（『生活と意識についての国際比較調査』より作成）

第 4 章　推定モデル

本章では「政治理解」、「投票意識」、「国会議員への信頼」、「政治無力感」の 4 つの政治意識が年代による影響を受けるかについて定量的に分析する。

まず、推定モデルについての説明を行う。説明変数として選択した年齢、年度、その他のコントロール変数などの被説明変数に対する影響は年度によって異なる可能性があると筆者らは考えた。そこで、年齢やコントロール変数の影響が年度によって異ならないと仮定したモデルをモデル 1、年齢やコントロール変数の影響が年度によって異なる可能性を考慮したモデルをモデル 2 とする。モデル 2 には説明変数の中に年度ダミーとその他の変数の交差項が含まれており、モデル 1 には含まれない。モデル式は以下のように書ける。

モデル 1：$Y_i = a + \sum_{j=1}^{14} b_j x_{ji} + u_i \quad (i=1\sim n)$

モデル 2：$Y_i = a + \sum_{j=1}^{14} b_j x_{ji} + \sum_{k=2}^{14} c_k x_{1i} x_{ki} + u_i \quad (i=1\sim n)$

i はアンケートの回答者であり、n は各式における観測数を表す。u_iは誤差項である。誤差項について、$E(u_i \mid x_i)=0, E(u_i x_i)=0, Cov(u_i, x_i)=0$ を仮定する。ここで、誤差項の不均一分散について触れておく。推定に用いたデータはアンケート調査であり、個票ごとに誤差項の分散が異なる可能性がある。そのため、本推定では不均一分散が発生しても頑健性のあるロバスト標準誤差を用いている。

次に、変数についての説明を行う。被説明変数は、前述の通り以下の質問項目である。(a)「政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない」、(b)「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくても構わない」、(c)「国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる」、(d)「自分のような普通の市民には、政治のすることに対して、それを左右する力はない」の 4 項目である。いずれの質問も、「賛成」、「どちらかというと賛成」、「どちらかというと反対」、「反対」の 4 段階で尋ね、各回答に対して 1～4 で数値化している。それぞれ「政治理解」、「投票意識」、「国会議員への信頼」、「政治無力感」と呼ぶことにする。これらは第 2 章で述べた先行研究で示されている通り、投票行動と深く関連していると考えられる。

説明変数は、回答者の年代を表すダミー変数、回答年度のダミー変数、それらの交差項であり、以下のように作成している。なお、完全相関を防ぐために、60 歳以上ダミーを説明変数から落としている。また、使用した変数の記述統計を表 2 に記載した。

x1：2010 年度ダミー
x2：20 代ダミー
x3：30 代ダミー
x4：40 代ダミー
x5：50 代ダミー
60 歳以上ダミー（説明変数から落とした）
x1×x2：20 代ダミー×2010 年度ダミー
x1×x3：30 代ダミー×2010 年度ダミー
x1×x4：40 代ダミー×2010 年度ダミー
x1×x5：50 代ダミー×2010 年度ダミー

コントロール変数については、本稿と同じく JGSS 研究センターの『生活と意識についての国際比較調査』を使用している安野（2003）を参考にして以下の項目を設定した。また、各説明変数について 2010 年度ダミーとの交差項を作成している。

x6：参加集団数
x7：将来不安
x8：失業不安
x9：主観収入
x10：一般的信頼
x11：イデオロギー
x12：教育水準
x13：都市規模
x14：性別

x6 は、アンケートで挙げられている七種類の団体（政治関係の団体、業界・同業者団体、ボランティア団体、市民・消費者運動のグループ、宗教団体、スポーツ関係の団体、趣味の会）について、所属している団体の数を表している。x7 と x8 は、将来や失業についての不安を感じている度合いを 1～5 の 5 段階で表した変数であり、数値が小さいほど不安を感じていることになる。x9 は主観収入であり、回答者が自身の世帯収入が世間一般の平均と比べてどれくらいだと感じているかを表したものである（1：平均よりかなり少ない、2：平均より少ない、3：ほぼ平均、4：平均より多い、5：平均よりかなり多い）。x10 は質問項目「一般的に、人は信用できると思いますか」に対する回答を（1：はい、0：それ以外）としてダミー変数とした。x11 は「政治的な考え方を、保守的から革新的の 5 段階にわけるとしたら、あなたはどれにあてはまりますか」（1：保守的から 5：革新的）の回答であり、x12 は回答者が学校教育を受けた年数を表す変数である。教育水準に関しては厳密に測ることはできない質問であったため、小学校卒業を 6 年、中学校卒業を 9 年、高校卒業を 12 年、短期大学、専門学校、高等専門学校卒業を 14 年、大学卒業を 16 年、大学院進学者を 18 年としている。x13 は大都市在住者を 3、その他の市在住者を 2、町村在住者を 1 とした変数である。x14 は男性を 1、女性を 0 としたダミー変数である。

第 5 章　推定結果と考察

第 1 節　推定結果

本節では、各モデルにおける推定結果を、異なる年代間の比較を中心に見ていく。表 2、表 3 は各年代における政治意識の特徴を分析したものである。60 代以上をベンチマークとして説明変数から落としているので、各年代ダミーの係数は 60 代以上と比べた値となっている。それぞれモデル 1 における結果、モデル 2 における結果である。表 2－1 から表 2－4、表 3－1 から表 3－4 は、それぞれのモデルにおいて、各年代ダミー間の係数の差についての F 検定を行ったものであり、すべての年代間で比較ができる。なお、表は本稿の末尾に付してある。

最初にモデル 1 の結果について説明する。まず、政治理解についてである。20 代、30 代は 40 代以上と比べて政治を理解できないと感じている。20 代と 30 代のあいだには、統計的に有意な差はなかった。次に、投票意識については、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代

以上の順に投票意識が低いと言える。また2000年より2010年の方が投票意識が低かった。また、国会議員への信頼は、20代、30代で40代以上より低かった。また、40代も60代以上と比べて国会議員への信頼が低かった。さらに、政治無力感については、30代が他のすべての年代と比べて高かった。また、20代は50代と比べて政治無力感が高い。さらに、2010年は2000年と比べて政治無力感が強かった。年度の効果とその他のコントロール変数についても触れておく。2010年ダミーは、投票意識と政治無力感で有意であった。投票意識は2010年の方が2000年より低く、政治無力感は2010年の方が強い。教育水準は政治を理解しているという感覚、投票意識を高め、政治無力感を弱める効果があった。将来不安と一般的信頼はすべての被説明変数について正の効果が認められた。参加集団数は投票意識を高め、政治無力感を弱める効果がある。イデオロギーについては、革新的な人ほど、政治を理解しているという感覚や投票意識が高く、政治無力感が弱かったが、国会議員への信頼は低かった。男性は政治を理解しているという感覚が強く、政治無力感が弱いと言える。

次にモデル2の結果について説明する。モデル2では、異なる年代間の比較に加え、年代の影響が2000年と2010年で差があるかどうかについても注目する。まず、政治理解についてである。20代は30代以上と比べて政治を理解できないと感じている。30代も、50代以上と比べて政治を理解できないと感じている。また、どの年代においても、2000年と2010年で差があるとは言えない。次に、投票意識では、50代と60代以上の間では統計的に有意な差がなかったが、それ以外のすべての年代間の比較において若い世代のほうが投票意識が低かった。50代においてのみ、2000年の50代より2010年の50代の方が投票意識が低いと言える。また、国会議員への信頼は、20代、30代、40代で60代以上と比べて低かった。ただし、他の比較では統計的に有意な差は見られなかった。また、2010年は2000年と比べて国会議員への信頼が低かった。どの年代においても、2000年と2010年で差があるとは言えなかった。さらに、政治無力感については、30代が他のすべての年代と比べて無力感が強いと言える。どの年代においても、2000年と2010年で差があるとは言えなかった。年度の効果とその他のコントロール変数についても触れておく。コントロール変数については、モデル1と異なる結果となった変数および新しく投入した変数についてのみ述べる。2010年ダミーは、議員信頼で有意であった。2010年の方が2000年よりも国会議員への信頼が低い。モデル1と結果が異なるコントロール変数は、参加集団数、失業不安、都市規模、男性ダミーである。参加集団数は議員信頼で有意でなくなった。失業不安

は投票意識に対し負の効果をもち、政治無力感を強める効果がある。都市規模については、投票意識、国会議員への信頼に対し正の効果がある。男性ダミーは政治無力感で有意でなくなった。

モデル 1 においては、「年齢やコントロール変数の影響が年度によって異ならない」という仮定が置かれている。モデル 2 の分析においてコントロール変数と 2010 年ダミーの交差項がいくつか有意であった。そのためこの仮定が正しいとは考えにくい。モデル 2 の方がモデル 1 に比べ、より信頼のおける推定が行えていると言える。政治意識に対する年齢の影響をまとめると、概ね年齢が低いほうが政治意識が低いと言えそうである。ただし政治無力感については例外で、30 代で無力感が強い他は年代間で差は見られなかった。また、政治理解、投票意識、国会議員への信頼についても年齢の影響の仕方には差がある。さらに、これらの年齢の影響は年度によってほとんど異ならないことがわかった。年代ダミーと年度ダミーの交差項で統計的に有意なものが投票意識における 50 代のみだからである。特に、モデル 2 において、2010 年ダミーが議員信頼について有意であったが、年代ダミー×2010 年ダミーの交差項は有意なものがなかった。これは、全体としては国会議員への信頼が年度によって異なるが、年代別の特徴は年度によって変わっていないことを示している。

第 2 節　考察

本節では、推定から得られた結果の意義について考察する。第一章で触れたように、現代日本において若者の投票率が低いことが問題視されており、その理由についてはこれまで多くの議論がなされてきた。市村(2012)は大学生を対象としたアンケート調査の結果から、若者が投票に行かないという選択をする理由として、政治に関心がないこと、政治不信、投票参加で選挙結果や社会に影響を与えられると感じられないこと、政治に関する情報を持たないことなどを指摘している。これらの政治意識が投票参加の決定において重要であることは木村(2000)や山田(2002)で指摘されている通りである。

本稿の分析では年代を説明変数として政治意識を回帰することによって、若者の政治意識の特徴を捉えた。結果としては、政治理解、投票意識、国会議員に対する信頼感については、一般的に言われている通り若者はそれらが低い傾向にあったが、政治無力感については、若者が政治無力感が強いとは言えなかった。また、年代別に見た政治意識の特徴は、少なくとも 2000 年から 2010 年にかけては変動しておらず、世代の特徴ではなく年代の特

徴だと言えそうである。本分析の結果は、若者の投票率が低い理由を直接説明するものではないが、投票参加と重要な関連をもつとされる政治意識について若者の特徴を捉えることができた点で意義があると考えられる。

第６章　おわりに

本稿では日本人の持つ年代別の政治意識の特徴について定量的に分析した。分析の結果、若年層の持つ政治理解、投票意識、国会議員に対する信頼感は年代が若くなるほどに低くなる傾向にあったが、政治無力感については、若年層が政治無力感が強いとは言えなかった。また、年代別に見たこれらの政治意識の特徴は、少なくとも 2000 年から 2010 年にかけては変動しておらず、世代の特徴ではなく年代の特徴だと言えそうであった。

公職選挙法改正による選挙権年齢引き下げを目前にして、現段階での若年層の政治意識は高いとは言えない状況にある。これを端緒として若年層の政治意識が高まっていくことが望まれる。さらに、今後の政治意識研究にも期待したい所存である。

≪参考資料・引用≫

・『Where have all voters come?』(M.P.Wattenberg ,2002)

・『「退出」に関する争点の影響の分析』（木村,2000）

・『2000 年総選挙における棄権と政治不信』（山田,2002）

・『JGSS-2000 にみる有権者の政治意識 』（安野・池田,2002）

・『JGSS-2001 にみる有権者の政治意識 』（安野,2003）

・『パーソナル・ネットワークと政治意識』（安野,2005）

・『若者の政治参加と投票行動 -なぜ若者は投票に行かないのか-』（市村,2012）

・公益財団法人　明るい選挙推進協会ホームページ http://www.akaruisenkyo.or.jp/

・日本経済新聞　2015/6/15 付

http://www.nikkei.com/article/DGXLASFS15H4Y_V10C15A6PP8000/

・大阪商業大学 JGSS 研究センターホームページ http://jgss.daishodai.ac.jp/

・大阪商業大学 JGSS 研究センター『生活と意識についての国際比較調査』

（注）日本版 General Social Surveys（JGSS）は、大阪商業大学比較地域研究所が、文部科学省から学術フロンティア継続拠点としての指定を受けて（1999-2003 年度）、東京大学社会科学研究所と共同で実施しているプロジェクトである（研究代表：谷岡一郎・仁田道夫、代表幹事：佐藤博樹・岩井紀子、事務局長：大澤美苗）。東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJ データアーカイブがデータの作成と配布を行っている。

（表 2：分析に用いた変数の記述統計表）

変数名	標本数	平均値	標準偏差	最大値	最小値
（被説明変数）					
(a)政治無関心	5266	2.303266	0.952806	4	1
(b)政治理解	5264	2.18807	0.911115	4	1
(c)投票意識	5294	3.379486	0.821028	4	1
(d)議員信頼	5279	1.784239	0.874514	4	1
（説明変数）					
20代ダミー	7896	0.109676	0.312485	1	0
30代ダミー	7896	0.151596	0.358629	1	0
40代ダミー	7896	0.172746	0.378027	1	0
50代ダミー	7896	0.191616	0.393573	1	0
20代ダミー×2010年	7896	0.059904	0.237308	1	0
30代ダミー×2010年	7896	0.098911	0.298542	1	0
40代ダミー×2010年	7896	0.110056	0.312959	1	0
50代ダミー×2010年	7896	0.111322	0.314531	1	0
集団参加数	7633	0.60317	0.9206	7	0
将来不安	7813	2.591834	0.909959	5	1
主観収入	7811	2.596979	0.869643	5	1
失業不安	4587	1.703946	0.827366	4	1
一般的信頼	5371	0.207783	0.40572	1	0
イデオロギー	7659	2.913827	0.892083	5	1
教育水準	6961	12.6581	2.132794	18	9
都市規模	7896	2.719858	0.87868	4	1
男性ダミー	7896	0.458207	0.49825	1	0
2010ダミー	7896	0.633612	0.481817	1	0
集団参加数×2010年	7896	0.385765	0.78639	7	0
将来不安×2010年	7896	0.632725	0.964997	1	0
主観収入×2010年	7896	1.632219	1.43898	1	0
失業不安×2010年	7896	1.60689	1.428283	1	0
一般的信頼×2010年	7896	0.063576	0.243997	1	0
イデオロギー×2010年	7896	1.802432	1.583772	5	1
教育水準×2010年	7896	7.524823	6.603716	18	9
都市規模×2010年	7896	1.645137	1.46712	4	1
男性ダミー×2010年	7896	0.291287	0.454355	1	0

（表 3-1：モデル 1 の分析結果）

	(a)政治理解	(b)投票意識	(c)議員信頼	(d)政治無力感
20代ダミー	−0.278***	−0.635***	−0.196***	−0.0354
	(0.0653)	(0.0599)	(0.0620)	(0.0703)
30代ダミー	−0.202***	−0.458***	−0.190***	−0.124**
	(0.0595)	(0.0518)	(0.0569)	(0.0632)
40代ダミー	−0.0431	−0.230***	−0.119**	0.0427
	(0.0567)	(0.0459)	(0.0565)	(0.0605)
50代ダミー	0.0232	−0.130***	−0.0823	0.0709
	(0.0554)	(0.0445)	(0.0574)	(0.0585)
集団参加	0.0214	0.109***	0.0108	0.0448**
	(0.0187)	(0.0135)	(0.0180)	(0.0197)
将来不安	0.0733***	0.0386**	0.0955***	0.0823***
	(0.0193)	(0.0159)	(0.0175)	(0.0209)
主観収入	0.00262	0.00395	−0.00714	0.0115
	(0.0208)	(0.0181)	(0.0199)	(0.0222)
失業不安	0.0200	−0.0240	−0.0181	0.0205
	(0.0202)	(0.0181)	(0.0186)	(0.0217)
一般的信頼	0.0830**	0.124***	0.0993***	0.179***
	(0.0390)	(0.0336)	(0.0382)	(0.0420)
イデオロギー	0.120***	0.0775***	−0.0592***	0.135***
	(0.0206)	(0.0171)	(0.0187)	(0.0223)
教育水準	0.0790***	0.0452***	0.00166	0.0471***
	(0.00962)	(0.00856)	(0.00951)	(0.0103)
都市規模	0.0292	−0.00661	−0.0177	0.0241
	(0.0196)	(0.0178)	(0.0188)	(0.0214)
男性ダミー	0.286***	0.0194	0.00862	0.0602*
	(0.0327)	(0.0299)	(0.0310)	(0.0354)
2010年ダミー	0.0248	−0.0641**	0.0452	−0.0702*
	(0.0356)	(0.0322)	(0.0336)	(0.0380)
切片	0.482***	2.624***	1.855***	0.894***
	(0.150)	(0.135)	(0.151)	(0.159)
観測数	2,822	2,825	2,825	2,822
自由度修正済み決定係数	0.101	0.109	0.030	0.055
F値	22.60***	27.83***	6.83***	11.46***

※注１：***、**、*、†はそれぞれ 1%有意、5%有意、10%有意、15%有意を表す。

※注２：() 内は標準誤差（robust standard error）を表す。

（表 3-1-1：差の検定（a）政治理解 ）

(a)政治理解					
20代 − 30代 = 0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2807) =1.87	F(1, 2807) =19.37***	F(1, 2807) =30.15***	F(1, 2807) =10.87***	F(1, 2807) =20.89***	F(1, 2807) =2.08†
Prob > F =0.1717	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0010	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.1490

（表 3-1-2：差の検定（b）投票意識 ）

(b)投票意識					
20代 − 30代 =0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2810) =9.49***	F(1, 2810) =58.17***	F(1, 2810) =88.37***	F(1, 2810) =25.29***	F(1, 2810) =51.29***	F(1, 2810) =6.50**
Prob > F =0.0021	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0108

（表 3-1-3：差の検定（c）議員信頼 ）

(c) 議員信頼					
20代 − 30代 = 0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2810) =0.01	F(1, 2810) =2.53†	F(1, 2810) =5.08**	F(1, 2810) =2.74*	F(1, 2810) =5.70**	F(1, 2810) =0.68
Prob > F =0.9036	Prob > F =0.1116	Prob > F =0.0242	Prob > F =0.0978	Prob > F =0.0170	Prob > F =0.4099

（表 3-1-4：差の検定（d）政治無力感）

(d)政治無力感					
20代 − 30代 = 0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2807) = 2.14†	F(1, 2807) = 1.79	F(1, 2807) = 3.14*	F(1, 2807) =10.31***	F(1, 2807) =13.51***	F(1, 2807) = 0.32
Prob > F = 0.1438	Prob > F = 0.1814	Prob > F = 0.0764	Prob > F = 0.0013	Prob > F = 0.0002	Prob > F = 0.5742

※注１：***、**、*、†はそれぞれ 1%有意、5%有意、10%有意、15%有意を表す。

（表 3-2：モデル 2 の分析結果）

	(a)政治理解	(b)投票意識	(c)議員信頼	(d)政治無力感
20代ダミー	−0.360***	−0.640***	−0.220**	−0.003
	(0.096)	(0.081)	(0.088)	(0.101)
30代ダミー	−0.224**	−0.468***	−0.221**	−0.211**
	(0.093)	(0.078)	(0.086)	(0.097)
40代ダミー	−0.129	−0.220***	−0.203**	0.008
	(0.089)	(0.071)	(0.086)	(0.093)
50代ダミー	0.006	−0.053	−0.141	0.040
	(0.087)	(0.066)	(0.086)	(0.089)
20代ダミー×2010年	0.179	0.041	0.035	−0.136
	(0.134)	(0.124)	(0.127)	(0.143)
30代ダミー×2010年	0.027	0.018	0.052	0.157
	(0.121)	(0.105)	(0.115)	(0.128)
40代ダミー×2010年	0.149	−0.024	0.141	0.071
	(0.116)	(0.093)	(0.114)	(0.123)
50代ダミー×2010年	0.011	−0.163*	0.108	0.062
	(0.113)	(0.090)	(0.116)	(0.119)
2010年ダミー	−0.206	−0.236	−0.744**	0.195
	(0.304)	(0.267)	(0.303)	(0.322)
参加集団数	0.008	0.115***	0.023	0.028
	(0.026)	(0.018)	(0.026)	(0.027)
将来不安	0.071***	0.048**	0.070***	0.078***
	(0.027)	(0.021)	(0.024)	(0.029)
主観収入	−0.006	−0.002	−0.021	−0.004
	(0.032)	(0.027)	(0.030)	(0.033)
失業不安	0.011	0.019	−0.023	0.065**
	(0.029)	(0.025)	(0.026)	(0.031)
一般的信頼	0.111**	0.169***	0.117**	0.144**
	(0.055)	(0.047)	(0.053)	(0.058)
イデオロギー	0.113***	0.058**	−0.090***	0.121***
	(0.029)	(0.024)	(0.025)	(0.031)
教育水準	0.074***	0.044***	0.001	0.061***
	(0.016)	(0.014)	(0.016)	(0.017)
都市規模	0.042	−0.064*	−0.091***	0.037
	(0.037)	(0.033)	(0.033)	(0.040)
男性ダミー	0.328***	0.029	0.044	0.067
	(0.047)	(0.042)	(0.044)	(0.051)

参加集団数×2010年	0.030	−0.013	−0.022	0.037
	(0.038)	(0.027)	(0.036)	(0.040)
将来不安×2010年	0.005	−0.020	0.055	0.006
	(0.039)	(0.032)	(0.035)	(0.042)
主観収入×2010年	0.021	0.011	0.028	0.028
	(0.042)	(0.036)	(0.040)	(0.045)
失業不安×2010年	0.018	−0.086**	0.019	−0.090**
	(0.040)	(0.036)	(0.037)	(0.043)
一般的信頼×2010年	−0.058	−0.081	−0.033	0.064
	(0.079)	(0.068)	(0.077)	(0.084)
イデオロギー×2010年	0.017	0.040	0.069*	0.020
	(0.042)	(0.034)	(0.038)	(0.045)
教育水準×2010年	0.008	0.006	0.000	−0.023
	(0.020)	(0.018)	(0.020)	(0.022)
都市規模×2010年	−0.017	0.080**	0.108***	−0.018
	(0.043)	(0.039)	(0.040)	(0.047)
男性ダミー×2010年	−0.083	−0.020	−0.074	−0.013
	(0.066)	(0.060)	(0.062)	(0.071)
切片	0.573**	2.812***	2.255***	0.817***
	(0.228)	(0.193)	(0.227)	(0.243)
観測数	2,822	2,825	2,825	2,822
自由度修正済み決定係数	0.104	0.116	0.037	0.060
F検定	12.19***	15.59***	4.075***	6.677***

※注１：***、**、*、†はそれぞれ 1%有意、5%有意、10%有意、15%有意を表す。

※注２：() 内は標準誤差（robust standard error）を表す。

（表 3-2-1：差の検定（a）政治理解 ）

(a) 政治理解					
20代 − 30代 = 0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2794) =3.35*	F(1, 2794) =10.17***	F(1, 2794) =24.01***	F(1, 2794) =1.81	F(1, 2794) =10.13***	F(1, 2794) = 4.04**
Prob > F =0.0675	Prob > F =0.0014	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.1787	Prob > F =0.0015	Prob > F =0.0446

（表 3-2-2：差の検定（b）投票意識 ）

(b) 投票意識					
20代 − 30代 = 0	20代 − 40代 = 0	20代 − 50代 = 0	30代 − 40代 = 0	30代 − 50代 = 0	40代 − 50代 = 0
F(1, 2797) =5.40**	F(1, 2797) =37.26***	F(1, 2797) =75.82***	F(1, 2797) =14.08***	F(1, 2797) =41.80***	F(1, 2797) = 9.18***
Prob > F =0.0202	Prob > F =0.0000	Prob > F =0.0000	Prob > F = 0.0002	Prob > F =0.0000	Prob > F = 0.0025

（表 3-2-3：差の検定（c）議員信頼 ）

(c) 議員信頼					
20代 － 30代 = 0	20代 － 40代 = 0	20代 － 50代 = 0	30代 － 40代 = 0	30代 － 50代 = 0	40代 － 50代 = 0
F(1, 2797) =0.00	F(1, 2797) = 0.08	F(1, 2797) =1.43	F(1, 2797) =0.08	F(1, 2797) =1.51	F(1, 2797) =0.89
Prob > F =0.9988	Prob > F =0.7801	Prob > F =0.2312	Prob > F =0.7720	Prob > F =0.2188	Prob > F =0.3454

（表 3-2-4：差の検定（d）政治無力感）

(d) 政治無力感					
20代 － 30代 = 0	20代 － 40代 = 0	20代 － 50代 = 0	30代 － 40代 = 0	30代 － 50代 = 0	40代 － 50代 = 0
F(1, 2794) = 6.63**	F(1, 2794) =0.02	F(1, 2794) =0.28	F(1, 2794) =8.41***	F(1, 2794) =10.67***	F(1, 2794) =0.19
Prob > F =0.0101	Prob > F =0.885	Prob > F =0.5977	Prob > F = 0.0038	Prob > F =0.0011	Prob > F = 0.6657

※注１：***、**、*、†はそれぞれ 1%有意、5%有意、10%有意、15%有意を表す。